

明日の活力が生まれる店を目指して

江坂東支部 陽氣楼店主 福田典宏さん

福田さんは、高校を卒業してすぐに、おじさんが経営している寿司とうどんの店で2年間みっちり、基礎修行を行いました。その後おじさんのもう一つの店、和食の店に移り、そこでも7年間、京料理の先輩職人のもとで和食のことを学びました。そこで書きためたノートは20冊以上に及んでいます。このノートは福田さんの宝物です。今



でも迷いが生じたら、このノートを繰って初心に戻ります。若き日の苦闘に触れると元気が出てきて、やっとうという気になります。

49歳の時、独立を決意しました。21歳で結婚した福田さん夫婦の夢でした。一か月かけて、人の流れが時間帯でどうなっているのか、また、近隣の飲食店の状況がどうなっているのか、つぶさに調べました。そして確信をもって江坂を決めました。

店のモットーは、お客さんが値段のうえでも雰囲気のうちでも安心して食べたり飲んだりしてもらえるお店

国民の生存権を否定するな！

5月29日、大商連で学習会があり、「生存権としての社会保障」と題して加美 嘉史（佛教大学教授）さんが講演しました。

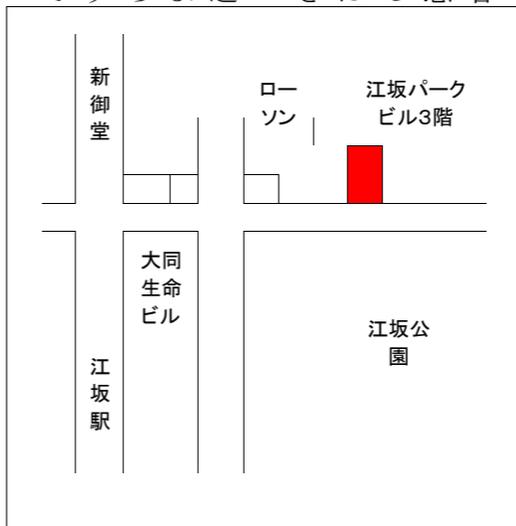
社会的援助に関する市民意識の調査では、自力で生活できない人を政府が助けてあげる必要はないと考える人の比率は、日本38%アメリカ28%中国9%イギリス8%、フランス8%、インド8%ドイツ7%日本は世界で「自力で生活できない人を政府が助ける必要はない」と考える人が最も多い国になってしまったと報告がありました。小泉構造改革で貧困と格差を作り出し社会保障制度が大きく変わろうとしています。民主党野田政権は2012年8月に消費税法案と社会保障・税一体改革関連法案を民・自・公3党による修正協議のうえ、強行採決しました。その基本的な考え方は、家族・国民の助け合いによって支援することを社会保障と定義し、社会保障概念の歪曲、変質を図ったものです。そして、社会保障の財源を消費税に限定し、社会保障費の抑制を図ることとなっています。この様に憲法25条の生存権理念を無視する中身になっています。

参加された方の感想は
北山さん 給付が減らされ、払いが増えてますます貧困と格差がひろがると思います。
田原さん 家族・国民の助け合いで支援するなんて政府の責務を逃れていると思います。

にすることです。そして、おいしい料理を堪能してもらい、愉快地に楽しみ、明日への活力が生まれるお店にすることです。これがお店の名前、陽氣楼の由来です。
福田さんの料理は定石にこだわりません。お客さんがびっくりする時もありますが、一番のおいしい料理は何かをつねに追究しています。休日になると、スタッフと一緒に食べ歩き、他の店の味を研究します。同時に接客の仕方についても参考になることはないかと、注意を払っています。

そして、自分の店で心がけていることは、料理をお客さんの前に並べる時、簡単に料理の特徴をお話します。自信をもってお客さんに料理を食してもらおうわけです。また、はじめてのお客さんには自ら料理を届けて感謝の言葉を述べます。

お会計をするお客さんには料理の感想を聞くようにしています。お店は3階なので、できるだけ夫婦でエレベーターまで見送るようにしています。感謝の気持ちを持って行動で表すようにしているそうです。



伝言板

無料法律相談会

6月20日(木) 昼1時 (要予約)

北大阪総合法律事務所の弁護士さんが対応します。

国税・住民税減免・分納相談会 (要予約)

6月26日(水) 昼2時 市役所ロビー集合

今現在、税金や国保料を滞納している方が対象です。相談のある方は、事前に事務局までご相談ください。

商工新聞は経営のヒント・くらしの知恵がいっぱい 毎週必ず届けましょう
会費集金は会員の心をあつめる活動です 毎月10日までには集めましょう